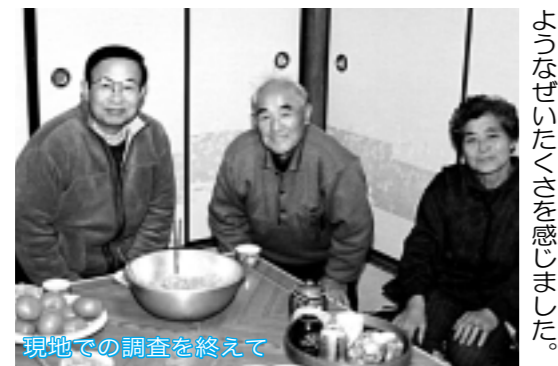


### 民俗文化の中での心理表現

この小説は当時の花嫁や、花嫁を連れた船頭の話を書いて書かれています。そんな民俗研究の旅は数えきれないほど、原稿は大学時代にあり、教授の影響で民俗学と出会い、大きいコンコンを背負い多くの場所を旅してきて



現地での調査を終えて

大館 かつし 勝治さん (北野在住)

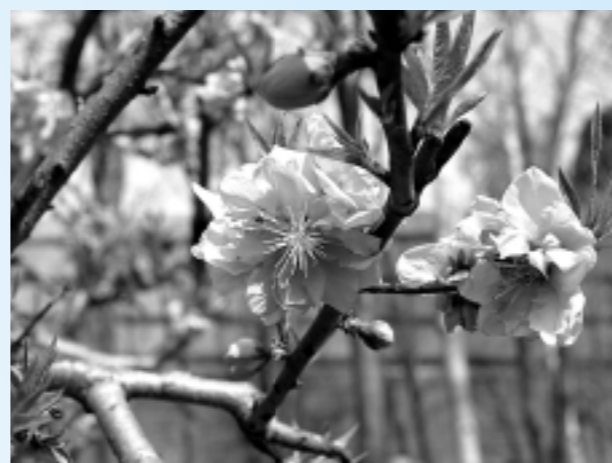
### 野老っ子



松尾芭蕉の紀行文にちなんで、奥の細道の旅。さらには旅を対象とした作品を『奥の細道文学賞』。今回は、『2作目の小説『旅の花嫁』で同賞の優秀賞に輝いた大館勝治さんを紹介。大館さんは歴史資料館を最後に県職を退職し、民俗文化研究所を創設。多くの著書を出版されています。民俗伝承の報告書には書けない話を小説に、という思いから、昨年、小説を書き始めました。今回は、民俗伝承に見られる死者の旅姿や儀礼、花嫁の嫁ぐ様子を重ねたもの。嫁入りする花嫁が、生家には二度と戻れないという気持ちで川を渡る。これは三途の川を渡る永遠の別れと重なりま

す。時には、その姿から家出少年に間違えられたこともあった。最近では、三車や岡山、棚田に感動されたようです。世界遺産に相当します。と写真を見る目は輝いていました。東北地方のなまはけも見たいと大館さんの民俗研究の旅はまだ続きます。研究と同時に、大学や市の公民館で講師として民俗文化を伝えていきます。日本の伝統行事を伝え、それが持つ意味を伝えることが大事。という言葉に、生まれ育った所沢の伝統を大切にすること、気持ちも感じられます。人との関わりを大事にする大館さんは多趣味であり、小・中学校の同級生とゴルフを楽しむことも。そのバイバイナイヤーが生活全般に目を向ける民俗研究でさらには小説という違った分野で活躍できる原動力となっている。『自宅の研究所の大館さんの話には、講義を独り占めしているよつなげたくさを感じました。』

# みんなの 広場



▲中国では薬としても使われる桃の花。そのピンク色の花は、私たちに春を感じさせてくれます。3月17日(水)・薬王寺

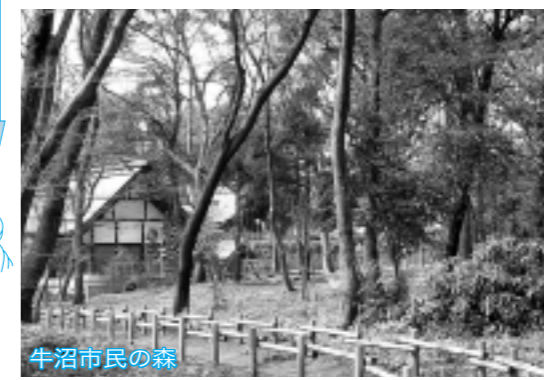
## TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 48

### 牛沼・東川の桜並木



東川の桜

市内の桜の名所のひとつに東川の桜並木があります。昭和39年に東京オリンピックの開催を記念して植えられたもので、当時の地元新聞などの複数の団体が協力し合い、新井(現西新井町)から牛沼に至る約2kmの東川両岸に、1800本の桜が植えられたとあります。東京オリンピックを記念した桜の植樹は全国的なものでした。当時を知る人によれば、植木や苗木の産地として有名な安行(川口市)で苗木を買い求めたそうです。ところで、東川の桜並木の中でも牛沼の部分は川幅が広いため日当たりが良く、1本1本の桜が特によく育つたといえます。牛沼は歴史の古い地域です。牛沼の地名の由来は定かではありませんが、その昔、長栄寺の開闢堂付近に沼



牛沼市民の森

があり、それが牛の形に似ていたからという伝説があります。記録によれば、江戸時代、初めは所沢村の内、その後分村して所沢村枝郷牛沼分と称したとあります。それは、地内にある神明神社が所沢の神明社から分祀したものであることからうなずけます。しかし、江戸時代前期の古文書や古絵図には、「うしぬま」「漆ノ間村」などの地名が確認でき、

江戸初期には小規模な村を形成していたのではないのでしょうか。また、元禄時代に発見されたという銅造薬師如来像(市指定文化財)は、中世の鐫物師越部家吉の作によるもので、元徳4年(1332)の銘があります。さらに、昭和36年に牛沼地内から発見された板石塔婆は、貞治5年(1366)の銘のある供養塔です。これらのことから、中世のころには牛沼に職人や武士がいたことがうかがえます。東川の桜並木は、オリンピックの年に植えられて以降、度重なる改修工事などで、当初植えた桜もだいぶ減りました。そのかわりに、ロータリークラブなどによって新たに植えられ、現在では西新井町から松郷までの間に、400本近くも桜があります。牛沼には、東川沿いに神明神社が、付近を整備した牛沼市民の森もあります。桜並木を見ながら、市民の森にも立ち寄りしてみてください。

### ふれあい館 『エコー』不用品ガイド

- 譲ります ▶男子用スーツ▶ブランコ▶スタッドレスタイヤ▶加湿器(鼻・のど併用)▶ウォーキングマシン▶2段ベッド▶ミシン▶二槽洗濯機▶ステレオ▶テレビ▶オルガン▶油絵道具一式▶ノートパソコン▶ワープロ
  - 求めます ▶14型テレビ▶ビデオデッキ▶絵本▶ギター▶ドラムセット▶茶がま▶天体望遠鏡▶ベビーベッド▶パソコンモニター▶小型耕うん機▶自転車(14インチ)▶硬式用バット▶布団乾燥機▶スクーター(50cc)▶電子ピアノ▶ピアノカ▶食器棚
- 受付方法 電話による先着順で紹介いたします。  
休館日 月曜日、祝休日  
申し込み・問い合わせ リサイクル ふれあい館 ☎2994-5374・FAX2994-1118



▲探している本は見つかりましたか。多くの本と人でにぎわった「彩の国古本まつり」。3月10日(水)～16日(火)／くすのきホール

### 街かど スムイン



▲盛りだくさんの催しが、病びたつ心を応援していました。市民手作りの「生涯学習フェスティバル」。3月14日(日)／生涯学習センターほか

▶皆さんからの「街かどスムイン」情報を募集▶採用するには事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「制服」▶新入生の初々しい制服姿がまぶしい季節です▶自分にもそんなときがあったと思う人も...▶制服は学生時代に限らず、社会に出てからも多方面で活躍しています▶皆さんの制服にまつわる話をお寄せください▶締め切りは4月13日(火)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

### どこどこ 町内会めぐり

中新井自治会は米軍所沢通信基地の北側に位置し、中新井1・2丁目、大字中新井に居住している方で構成されています。昭和47年に270世帯ほどで発足してから30年がたち、今では900世帯が自治会に加入しています。3年前には「栗の木公園」が設置され、乳幼児から高齢者まで多くの人が憩いの場として利用しています。自治会活動では、地域住民の交流と親ほくを深めるために、「夏まつり」を開催しています。子ども会育成会や長生会などの地域団体の交流により、子どもたちと高齢者のふれあいの場となっています。このように、誰もが気軽に参加でき、お互いに助け合えるような行事を提案しています。今年の1月末には「昔をたずねて」という新企画を立て、中新井の歴史をひもとき、昔の遊びを教えてください。

### 【中新井自治会】～3世代のふれあいを求めて～



自治会館と栗の木公園

り、皆ですいとんを食べたりして冬の1日を有意義に過ごしました。また、月に1回、集団資源回収を行い、リサイクル運動にも積極的に協力しています。そして3月には、会員待望の新自治会館が栗の木公園の隣接地に完成しました。公園に隣接した自治会館は市内でも珍しいそうです。これからも、この恵まれた環境の中で誰もが楽しく暮らせるように、さまざまな活動を展開していきたいと考えています。

### ～ 次回のテーマは「制服」です ～

友との吟行に、遠方からのお客様のご案内に、花どきには充分楽しんでいただいています。

### 遠く感じる桜

久米・和泉 昭子  
私の記憶にある桜との出会いは、小学校入学のときの国語の教科書。表紙をめくると、満開の桜の中を着物姿のお母さんと手をなでて校門に入る女の子の後ろ姿。あざやかな桃色の桜が私の脳裏に鮮明に残っています。

昭和54年2月、小手指町へ転居しました。小手指公園の横にある砂川堀の両岸には、しだれ桜の若木が並木として植えられていました。花どきには、細かい枝にわずかな花が揺れてかんな感じでしたが、桜の木は年ごとに育ち、10年たつと立派な桜並木になりました。今では幹はひと抱えほどになり、豊かな枝は地をはい、濃淡のピンクの花がわすかなカーブの堀に沿ってずっと続いています。その景はとて素晴らしい眺めです。

### 桜が咲いたよ...

下安松・辰田 まゆみ  
目に映る景色がほのかに色づくと、娘は桜が咲くのを待っています。楽しみにしていることがこの春です。

あれから50年ちょっと経ちますが、あのときのような感動を受けた桜にはめぐり会っていません。もうすぐ来る春とともに思い出をじっくりと振り返りたいと心の桜が咲きます。

### 桜

中富南・佐渡 純子  
「桜がきれいだよ!」入院先の窓から外を見ながら、白衣の医師は私に教えてくれた。「さつ咲きました?」と車いすから伸び上がるようにして外を見ようとしていた私を、ガツリと持ち上げて窓のそばまで連れて行き、「見える?」と医師は聞かされた。「きれいだよ。よく見えます。50は超えていたと思う私を、よく抱えてくれたのだと後になんて感じた。手術後の私の元気がついたら、あのときの私と同じように、今も病院から桜を眺めてくれる病む人たちを思うにつけ、「病氣なんてなくないわい」と感じています。

母を想うについで  
小手指町・長沼 典子  
昨年の3月30日、実家の裏にある土手を母と散歩した。まだ一分咲きの桜をいとしそに見上げた母の顔があった。その4日後、危篤。病院のベッドの上で桜の開花を気がけながら、半月後に帰らぬ人となった。心臓の持病を抱えていた母だったが、それは思いもよらぬことだった。入間市にある実家のそばを流れる川の両側を、桜は毎年それは見事に淡いピンク色で彩り、並木を作る。もうそれを見ることもない母と昨年歩いたその小道へ、同じころ咲き初めの桜に、会いに行きたいと思う。

### 桜が咲いたよ...

堀之内・新藤 寿子  
雪がやっと消え、花冷えのころ。故郷ではお花見が毎年開かれていました。それは、家族のほか親類縁者も集まった大宴会です。お花見の場所は、郊外の花が咲き乱れる公園でした。時には家の窓を開け放し、庭の桜を見ながらということもありました。長い冬を越え、待ちわびた春。それは正に、桜に象徴されていたような気がしました。

「最近、しみじみ桜を見る機会がなくなりました」と感じています。今年は、カメラ片手に市内のあちこちを桜めぐり、まだ新しい思い出を増やしていきたいと思っています。

## 誰でも イッセイ

テーマ 桜

